

王滝村地域おこし協力隊

協力隊だより

令和8年10月1日発行



総務課企画係
地域おこし協力隊 伊藤

◆長野県西部地震 慰霊碑清掃



9月3日、ごうかけの長野県西部地震震災慰霊碑の清掃活動が行われました。王寿会の大家幸雄さんは「家に座っていると、尻が突き上げられるような縦揺れがあった。ここで発生した地すべりによって、13名の方々が又橋もろとも牧尾ダムに流された。」と、42年前に発生した地震発生当時を振り返りました。

王滝小学校児童会長の藤田泰輔さんからは、「西部地震の大変さを改めて知った。亡くなられた方には安らかに眠ってほしい。」と感想が述べられました。世代間で災害の記憶を語り継ぐ取り組みが続けられています。



◆王滝村 防災訓練



9月14日、防災訓練が王滝小学校他、各地区の避難所にて実施されました。地震によって役場が倒壊し災害対策本部が小学校に設置された想定で訓練が行われ、消防団による避難誘導や各区長による通信訓練が行われました。越原村長からは「昨年更新され全戸配布されたハザードマップをよく読み、各自が取る行動を事前に考えておいてほしい。」と呼びかけがありました。



訓練の後は、防災体験会が実施され、防災食の試食、地震ブレイカーの実演、段ボールベッドの体験等が行われました。村全体で災害の教訓を防災に繋げる機会となりました。

◆講祖本社祭 王滝村と普寛行者

9月10日、講祖本社にて普寛霊神をはじめ諸霊神を偲ぶ講祖本社祭が斎行されました。祭礼が行われた建物は、ちょうど30年前に建設されたもので毎年、普寛霊神の命日にあたる9月10日に神事が執り行われています。



普寛行者は、武蔵秩父の大瀧村の生まれで、若いころは武芸をたしなみ、郷里の三峰山で修験の道に入りました。寛政3年（1791年）、上条出身の仙頭与左衛門が秩父に仙稼ぎに来ていた時に加持祈禱によって失明するところを救ったのがきっかけとなり、翌年（1792年）、王滝口を開きました。

234年前に王滝口を開山し、本村の発展に大きな貢献をした普寛行者は、享和元年（1801年）に中山道本庄宿（埼玉県本庄市）にて70歳の生涯を閉じました。その後、弟子の一心行者は「死後、信者の魂は御嶽山に引き取られる」と説き、御嶽独特の「霊神信仰」の原型となりました。（参考：『村誌王滝歴史編Ⅰ』202頁～208頁）

活動報告

「この滝でしょう？」『村誌自然編』王滝村の滝参照



暑さがすっかり和らいで溪流釣りシーズンも終わりました。9月は雨が多く、貴重な晴れは稲刈りや種まきに利用し、キノコ採りはこれからという方が多いかもしれません。私は、シルバーウィークをずっと行きたかった村内の滝巡りに充てました。笹藪を漕いで田の原に詰めあがり、赤く染まる夕日を見ながら歩いて小川まで帰る。翌日は道端の栗を拾いながらゲートまで車を歩いて回収へ。壮大なスケールの大冒険ができる王滝の素晴らしさを改めて体感した秋の連休になりました。



◆御嶽山岳歴史文化会館 見学

栗空里美公民館長同伴の元、閉館中の御嶽山岳歴史文化会館の見学を行いました。「王滝村の植物」という小冊子の在庫を探す事が目的だったのですが、縄文から現代にいたるまでの土器や民具、貴重な文献資料の数々に圧倒されてしまいました。王滝村のガイドになる過程でこれらの資料を熟知する事が必要になると考えます。



◆エコツーリズムガイド講習会 受講

9月25日―27日にかけておんたけ休暇村と田の原を会場としてガイドの心得や自然解説の極意を学び、実際にデモツアーの企画にも取り組みました。今年中に学んだ内容を実践するため、村内でトライアルツアーを企画したいと思います。



◆木曽路日本遺産 撮影技術講座 受講

長屋詠一郎 氏



9月10日、ふらっと木曽で行われた撮影講座に参加しました。木曽広域連合から委託を受けたフォトグラファーである長屋氏は木曽路日本遺産のPRを郡内で取り組む講師です。

写真とは、Photo(光)をGraph(描く)ものであるという導入から「光」をまず見る事の重要性を教わりました。印象的だったのは、構図を意識した撮影技術そのものよりも、何を見せたくて、何を撮りたいのかという意識の方が重要であるという点です。王滝村のいま、ひと、いのちの何を撮りたいのか。解像度を上げて考えていきます。

◆KISO起業塾 修了

9月7日、第3回KISO起業塾が開催され、長野県



県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科の秋葉教授による講義が実施されました。最終回となる今回は、叶えたい未来や経営理念を宣言する時間がありました。私は、「先人が紡いできた唯一無二の王滝村の魅力を未来に繋げる」ためのガイドツアーを事業にする事を宣言しました。引き続き、商工会主催の創業セミナーに出席し開業に向けて準備していきます。

秋葉芳江 教授



(文責：伊藤主峰)